

一般入試前期A日程2日目

国語

I

出典 隠岐 さや香「文系と理系はなぜ分かれたのか」(星海社 2018年)

進路選択や研究職においてジェンダー格差が生じた背景や現状、その格差を減らした後のイノベーション創出について説明された文章です。各段落の要点を押さえつつ、傍線部前後の文章を丁寧に読むことで正答を導くことができます。

問1【漢字の書き取り問題】(解答番号は 1 ~ 6)

a 有意、b 頻繁、c 誇示、d 奨励、e 露骨、f 潮流がそれぞれ正答です。全問正答者はいませんでした。漢字は部首の乱れ、字形・字体のバランスの崩れがないように書き取りましょう。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】(解答番号は 7)

正答は⑤です。空欄 I 直後の「自分にもできそうだ」がヒントです。正答率は97%でした。

問3【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】(解答番号は 8)

正答は⑥です。空欄 II 直後の「自信がなさそう」に近い語を選びます。正答率は87%でした。

問4【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】(解答番号は 9)

正答は③です。空欄 III 直後の「様々な考え方」がヒントです。正答率は11%でした。

問5【空欄補充・文脈理解】(解答番号は 10)

正答は②です。論点(一)の内容、および、空欄 ア 直後の(二)は国家の事情であり(一)とは性質が違う、場合によっては利害が一致しない目標であるという内容から、(一)は個人の自由の問題であることが読み解けます。正答率は63%でした。

問6【空欄補充・文脈理解】(解答番号は 11)

正答は①です。空欄 イ の2文前に「人文社会科学系の知見を、理工系の研究開発現場で活かしていく」と述べられています。正答率は33%でした。

問7【文脈理解と内容理解に関する問題】(解答番号は 12)

正答は⑥です。傍線部 A 直後の文章から正答が導けます。正答率は93%でした。

問8【文脈理解と内容理解に関する問題】(解答番号は 13)

正答は④です。第6段落の内容がヒントです。正答率は99%でした。

問9【文脈理解と内容理解に関する問題】(解答番号は 14)

正答は⑥です。傍線部 C の内容は、第11段落と、その内容を受けた第12段落1行目「女性的ではいけないが、男性と同じにしてもうまくいかない」という本文で説明されています。正答率は88%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】(解答番号は 15)

正答は③です。傍線部 D の直後に「このような政策の背景には」とあり、背景の説明が述べられています。正答率は90%でした。

問11【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は16）

正答は①・⑤です。①は第23段落に、⑤は第22段落に、それぞれ記されています。②は、第9段落の内容から、ジェンダーステレオタイプの文言を除外するだけでなく、女性審査委員を加えることが述べられていないといけません。正答率は56%でした。

問12【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は17）

正答は⑦です。冒頭から「ジェンダー格差」をキーワードとして論じられています。正答率は65%でした。

問13【内容合致問題】（解答番号は18・19）

正答は④・⑨です。④は第18段落、⑨は第23・24段落にそれぞれ記されています。完全正答率は65%でした。

II

出典 渡辺 裕「宝塚歌劇の変容と日本近代」（新書館 1999年）

大正期から昭和初期にかけ宝塚歌劇がどのように変容していったかをたどりつつ、日本の西洋文化受容にも焦点を当てた本です。論旨は明快ですから、文意をつかむのは容易でしょう。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は20～25）

a旧弊、b無定見、c胎動、d墨守、e好敵手、f倍加がそれぞれ正答です。全問正答者はいませんでした。「好敵手」を除き、受験生の出来は芳しくありませんでした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は26・27）

空欄Ⅰはその前の引用部分（小林一三の言葉）にある「遠い遠い夢の様な幻影にあこがれて」が、空欄Ⅱは4行後の「宝塚を評価している」がヒントになります。正答はⅠが⑦、Ⅱが⑧で、正答率はそれぞれ33%、86%でした。

問3【空欄補充・前後の文脈から適切なものを選ぶ】（解答番号は28）

空欄ア直後の「路線」や「二項対立」から正答⑦が導けます。正答率は42%でした。

問4【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は29）

傍線部Aの直前を読めば正答は⑥であることがわかります。①を選ぶ受験生が多かったですが、「西洋から輸入したオペラに親しむ」が不適切です。正答率は39%でした。

問5【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は30）

傍線部Bの直後にある引用部分から正答が③だと容易に導けます。正答率は68%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は31）

傍線部Cの次の段落を丹念に読めば正答は④であるとわかります。正答率は60%でした。

問7【言葉の意味に関する知識を問う問題】（解答番号は32）

「終日」とは「一日中」という意味であり、正答は①です。正答率は37%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 33）

傍線部Eの後の引用部分や次の段落がヒントになります。正答は③で、正答率は60%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 34）

傍線部Fの段落を入念に読めば正答は⑥だとわかるでしょう。正答率は30%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 35）

傍線部Gの直前にある「これまでの失敗」の内容を12頁前半の記述から読み解けば、正答は④であることがわかります。正答率は68%でした。

問11【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 36）

傍線部Hの前後を的確に読めば正答は⑤であることがわかります。正答率は71%でした。

問12【内容合致問題】（解答番号は 37）

正答は⑥、⑧、⑨で、完全正答率は1%でした。②、③、⑤、⑦を選ぶ受験生が多かったです。②は「『ペラゴロ』が出していた雑誌」が、⑤は「保守的な歌舞伎役者」が本文の内容に合致しません。③については上演間際にユンケルの曲に差し替えたのであり、上演間際にユンケルを指揮者として招いたのではありませんから誤りです。また、本文に「『カヴァレリア・ルスティカーナ』（部分、原語上演）」との記述がありますから、⑦も誤りです。

問13【内容を理解して表題を選択する問題】（解答番号は 38）

西洋文化といかにつき合っていくかについて、小林一三が率いる宝塚の「和洋折衷」路線と帝国劇場やロイヤル館の「西洋直輸入」路線の2つの路線があったことが、この本文では一貫して説かれていますから、正答が⑦であるとすぐにわかるでしょう。正答率は66%でした。